

## 投稿規定

- (1) 論文の内容は、日本を含む東アジアの領域を中心としつつ、他地域も含めたグローバルな文学・歴史・思想・民俗・宗教・芸術・政治・経済・法律・社会等に関するものとし、ます。
- (2) 投稿資格は、本学の専任及び非常勤教員・特命教授・名誉教授・客員教授・研究員・客員研究員・助手（非常勤）、研究所の企画・活動に参加した研究者、並びに編集委員会が認めた者とし、ます。
- (3) 原稿の枚数は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算して六〇枚前後とし、ます。縦書き、横書きは問いません。（掲載が決定してから二週間以内に印刷用原稿を電子媒体で提出することを原則とし、ます。）
- (4) 投稿された原稿は、編集委員会が最終的な採否の決定をし、ます。
- (5) 執筆者校正は初校のみとし、ます。なお、校正段階での大幅な修正はできませんので、完全原稿で提出してください。（大幅な修正があつた場合は、応分の費用を負担願うこととなり、ます。）
- (6) 各執筆者に抜き刷りを五〇部及び本誌五部を贈呈し、ます。なお、抜き刷り増刷は、実費でいたしますので、事前に申し込みください。
- (7) 本誌に発表されたものを転載する場合は、予め運営委員会にご一報の上、出版物を一部東アジア学術総合研究所にご寄贈下さい。（『年次別論文集』への掲載を除く。）
- (8) 本誌に掲載された全ての論文等については、原稿を電子化媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができるとし、ます。
- (9) 執筆要領の詳細については、研究所までお問合せください。

## 編集後記

『東アジア学術総合研究所集刊』の五一集をお届けする。二〇二〇年度は新型コロナウイルスの感染流行に伴う対応に明け暮れた。大学の授業は一月遅れ、全面オンライン授業の形態で始まり、秋には対面授業も部分的に再開したが、二〇二一年になって再びオンラインへの切りかえを余儀なくされた。研究所の運営も大幅な計画見直しを迫られ、海外交流に関しては、延期せざるをえないものが多かった。活動の具体については、「研究所報告」をご参照いただきたい。

研究環境はすこぶる悪かったが、そんな中で共同研究プロジェクトの成果である二松学舎大学学術叢書を三点刊行することができたのは喜ばしい。いずれも、東アジアの古今を、あるいは彼我を自由に往還することで得られた新しい知見である。また、共同研究では、久しぶりに国際政治経済学部教員が代表を務めるプロジェクトが採択された。他機関との交流に関しては、南開大学日本研究院、東北師範大学日本研究院と学術共同交流の、また、国文学研究資料館と古典籍のデータベース構築の協定を結ぶことができた。年度末には、日本古典籍国際研究コンソーシアムへの参加申し込みも行った。物理的には逼塞を強いられる状況下であったにせよ、研究基盤の整備は、着実に進められたように思われる。

本集は、研究論文一編と資料紹介二編とを収める。いつもより掲載編数が少ないのは、二松学舎大学学術叢書の刊行が相次いだ余波と言えるかもしれない。コロナ禍と称される中、長期的な展望と多面的な視角を持つ人文知は、いよいよ重要な意味を持つてくる。感染症に揺るがされることなく、現在進行形で展開されている研究調査は、次年度以降豊かな実を結ぶにちがいない。

（山口直孝）

## 執筆者紹介（掲載順）

山 口 直 孝（東アジア学術総合研究所所長・文学部・教授）

今 井 悠 人（国際政治経済学部・専任講師）

町 泉 寿 郎（文学部・教授）

清 水 信 子（文学部・非常勤講師）

### 二松学舎大学 東アジア学術総合研究所集刊 第51集

2021（令和3）年3月31日発行

発 行 所 二松学舎大学東アジア学術総合研究所  
東京都千代田区九段南2-4-14 (〒102-0074)  
TEL 03-3261-3535 FAX 03-3261-3536  
<https://www.nishogakusha-u.ac.jp/eastasia/>